

## 平成 30 年度 『社会福祉法人昴会』 事業報告書

### 1. 平成 30 年度重点課題からの振り返り

#### (1) 虐待の防止・・・法人虐待防止委員会の取り組み

今年度も、四季の郷、第一大山荘・第二大山荘・第三大山荘、細江あすなろ作業所、大山ファーム、アグリッシュ西丘の現場職員から各 1 名ずつ虐待防止委員を任命し、毎月の委員会と 8 月と 3 月には法人の全職員対象の人権擁護研修会を実施した。

各委員会の内容は以下の通り。

回	月日	主 な 内 容 等
1	4 月 26 日	各事業所の状況確認、虐待防止職員セルフチェック集計報告、3 月法人虐待防止研修会の振り返り
2	5 月 17 日	各事業所の状況確認、前期法人研修会の内容検討
3	6 月 29 日	各事業所の状況確認、前期法人研修会の内容検討
4	7 月 25 日	各事業所の状況確認、前期法人研修会の内容検討
5	8 月 20 日	各事業所の状況確認、前期法人研修会の実施準備
6	9 月 25 日	各事業所の状況確認、前期法人研修会の振り返り
7	10 月 17 日	各事業所の状況確認、前期虐待防止職員セルフチェック集計報告①
8	11 月 27 日	各事業所の状況確認、前期虐待防止職員セルフチェック集計報告②
9	12 月 27 日	各事業所の状況確認
10	1 月 23 日	各事業所の状況確認、浜松市虐待防止研修会参加報告
11	2 月 28 日	各事業所の状況確認、後期虐待防止職員セルフチェック集計報告、後期法人虐待防止研修会の内容検討
12	3 月 18 日	各事業所の状況確認、後期法人虐待防止研修会の実施準備
13	8 月 31 日	前期法人人権擁護研修会の実施 『昴会理念と施設・事業所職員の仕事』 内部講師
14	3 月 20 日	後期法人人権擁護研修会の実施 『障害者施設における不適切ケアの原因と解決策』 外部講師

虐待防止職員セルフチェックのシートは、前年度に引き続き、厚労省担当課が作成した『障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き』に掲載のシートを使用した。委員会での報告では単に集計報告をするだけではなく、各施設・事業所の問題点や改善策についても検討を行った。委員会での検討事項は、各施設・事業所の会議等でフィードバックをしていくように努めた。

#### (2) 苦情受付・解決担当者会議を通して、サービス提供に関わる苦情の受付（受け入れ）をより積極的に行う。

今年度は、法人としての苦情受付・解決体制での受理数は 15 件であった。内容的には、相談支援事業での説明不足や確認不足、通所系事業所での送迎に関わること、短期入所事業での利用者物品の管理に関わること等であった。前年度に比べ、積極的に苦情や意見に向き合うことができた。苦情解決第三者委員からは、苦情受付の記載方法について助言をいただいた。

#### (3) 障害福祉サービス制度改定・報酬改定内容に沿った、安定的な法人、事業所・施設の運営。

各施設・事業所の支援については、基準通りに概ね安定的に実施されたが、収支面では、就労支援系の報酬根拠の変更、利用者の増員が計画通りにできなかったこと、特に四季の

郷の老朽化に伴う修繕費の増加等により厳しい一年であった。経営面の改善は、次年度の大きな課題としていきたい。(※年間利用実績は後に報告)

(5) 職員人材確保の取り組みの実施。

ほぼ年間を通して、市社協人材バンクやハローワーク、民間の求人媒体等を通じた直接的な求人活動を行ってきた。それにより、通所系事業所については安定的に人材確保ができた。ただし、四季の郷の夜間業務も行う女性正規職員の確保についてはなかなか難しい状況であった。(※実習生受け入れ実績は「四季の郷」にて報告、研修会の実績は各施設・事業所で報告)

## 2. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	年間のべ 利用者数	1日平均 利用者数	事業 定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365日	17,210人	47.2人	50人	
	生活介護	269日	13,153人	48.9人	55人	平均障害支援区分 5.3
	短期入所	365日	1,235人	3.4人	10人	
第一大山荘		365日	1,460人	4.0人	5人	
第二大山荘・第三大山荘		365日	4,288人	11.8人	12人	
細江あすなろ作業所		254日	4,283人	17.3人	20人	平均障害支援区分 4.6
大山ファーム	就労移行支援	259日	300人	1.2人	6人	就労アセスメント含む
	就労継続支援B型	259日	5,977人	23.1人	22人	
アグリッッシュ西丘		260日	3,158人	12.2人	20人	
事業所合計			51,064人	(29年度) 50,196人		

## 3. 法人評議員会の開催

第1回 平成30年6月25日(月) 14:00~16:45 於. 四季の郷会議室  
(欠席者) なし

- (議案) 1. 平成29年度事業報告書案の審議  
2. 平成29年度収支決算書案の審議  
3. 監事監査の認定について  
4. 社会福祉法人昴会定款の変更について  
5. 社会福祉法人昴会定款細則の変更について  
6. 社会福祉法人昴会役員報酬規程の変更について

※報告事項

第2回 平成30年12月12日(水) 14:00~15:30 於. 四季の郷会議室  
(欠席者) 2名

- (議案) 1. 昴会定款細則の修正変更について

※報告事項

第3回 平成31年3月29日(金) 14:00~16:00 於. 四季の郷会議室  
(欠席者) なし

- (報告事項) 1. 平成30年度補正予算について  
2. 平成31年度事業計画について  
3. 平成31年度収支予算について  
4. 昴会諸規程の改定について

#### 4. 法人理事会の開催

第1回 平成30年6月7日(木) 14:00~16:00 於. 四季の郷会議室

(欠席者) なし

- (議案) 1. 平成29年度事業報告書案の認定  
2. 平成29年度収支決算書案の認定  
3. 監事監査の認定について  
4. 社会福祉法人昂会定款細則の変更について  
5. 社会福祉法人昂会役員・評議員報酬規程の変更について  
6. 社会福祉法人昂会定款の変更について  
7. 社会福祉法人昂会監事監査実施規程の変更について  
8. 四季の郷給食業務委託業者の変更について  
9. 平成30年度第1回評議員会の議題について

※報告事項

第2回 平成30年12月4日(火) 14:30~16:00 於. 四季の郷会議室

(欠席者) 理事1名

- (議案) 1. 平成30年度補正予算案の審議  
2. 社会福祉法人昂会定款細則の修正変更について  
3. 昂会事業の運営規程の修正変更について  
4. 平成31年度の浜松市委託相談支援事業の受託の終了について  
5. 第2回評議員会の議題について

※報告事項

第3回 平成31年3月18日(月) 14:00~16:00 於. 四季の郷会議室

(欠席者) なし

- (議案) 1. 平成30年度補正予算案の審議  
2. 平成31年度事業計画案の審議  
3. 平成31年度収支予算案の審議  
4. 昂会諸規程の改定について

※報告事項

#### 5. 法人監事による内部監査の実施

平成30年5月28日(月) 13:00から、安富 恒理事長、袴田章彦理事、伊藤利郎事務局長が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による平成29年度決算監査を実施した。

#### 6. 借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、平成30年度は以下のように償還を行った。

<第二大山荘・第三大山荘>

平成30年	9月	利子	128,520	円
平成31年	3月	元金	3,570,000	円
平成31年	3月	利子	128,520	円
合 計			3,827,040	円

<大山ファーム>

平成30年	4月	元金	298,000	円
以後毎月10日計11回			3,278,000	円
平成30年	4月	利子	26,559	円



●職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施

…平成30年3月に29年度サービス自己評価を実施した。それを受けて、今年度もマニュアルの再検討・再構築を行うこととなった。結果、ゴミの処理、投棄、水害・不審者対応等の危機管理面、食事や入浴等の日常支援の面のマニュアルを再構築できた。

●昴会利用者の権利擁護のための職員行動基準順守に向けた取り組みの実施

…法人虐待防止委員会や職員虐待防止セルフチェックの結果を受けて、利用者への関わり方に関する強化月間（「おもてなし向上強化月間」）を実施した。また、2月には「おもてなし向上強化月間」の効果を確認する研修会を実施した。なお、「手洗い強化月間」も設定し、感染症予防に努めた。

●利用者の意思決定への支援

利用者自治会の運営

…利用者自治会の実施

今年度も、日頃の声掛けや関わりへの配慮や工夫と共に、利用者から選ばれた会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。

日常生活場面にできる限り利用者自身が自己選択・自己決定ができる機会を作っていくことを目的に、食事時の飲み物やジャムの選択機会、入浴剤の選択機会を作ったり、選択食や行事時の昼食メニューについても、利用者の意見が反映できるように取り組みを行った。選択機会を作る際には、イメージがし易いように、写真や実物を使うなどの工夫を行った。

利用者自治会役員会の内容は以下の通り。

月日	主 な 内 容
8/7	・支援員から夏祭りの内容説明 ・選択食、セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め ・施設長から朝食時刻の変更についての説明
10/24	・支援員から秋祭りの内容説明 ・クリスマス会の希望メニュー聞き取り ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
11/26	・秋祭りの感想集約 ・クリスマス会ランチメニュー発表 ・選択食、セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
1/4	・クリスマス会の感想集約 ・選択食、セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め ・支援員より初詣行事の説明
2/23	・3月利用者自治会総会の内容決め ・セレクトドリンク・セレクトジャム、入浴剤の内容決め
3/27 午前	利用者自治会総会実施 ・活動報告 ・賞状授与
3/27 午後	利用者自治会お疲れ様会の実施

●身体拘束モニタリングの実施

毎月、利用者の状況と身体拘束記録表に基づき身体拘束のモニタリングを実施した。身体拘束の必要性や効果について、確認を行った。

②虐待を防止する取り組み

法人の虐待防止委員会主導の元、年度内2回の虐待防止に関わる職員セルフチェックを実施すると共に、セルフチェック集計の結果をQOL向上委員会にて共有した。特に今年

度は、「強化月間」の設定や研修会の実施につながった。

(2) めりはりのある生活ができるように支援を行う。

①支援体制

●施設支援計画・モニタリング

今年度も、年度当初に前年度の支援状況の確認と支援計画に関する説明を利用者、保護者・家族または後見人とケース担当者の三者面談の中で実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者等と支援目標等についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

●生活支援体制

今年度も、A・B棟二舎制の生活環境をベースに支援を行ってきた。

二舎制にしたことで、A棟グループ（比較的行動範囲の広い若年層グループ）とB棟グループ（下肢機能が低下していた一定の医療ケアが必要な高齢者グループ）それぞれの生活ペースが作ることができ、継続的な支援や関わりが継続できるようになった。

反面、利用者関係が質的にも空間的にも密になり過ぎる傾向も見られ、利用者間のトラブルの発生が比較的に見られるようになってきたり、その対応が難しくなっている状態も見られた。

●会議

今年度は、以下の会議を実施してきた。

・職員全体会議

半年に1回（4月・10月）開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、4月は施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、10月には、冬場の感染症等の対策の確認等を行った。

・男女別ケア会議

男女職員別で毎月1回ずつ実施した。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。利用者の状況把握や情報の共有、働きかけや取り組みの確認、ケース検討などを行った。

・給食会議

毎月1回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

・主任者会議

毎月1回開催した。施設長、事務長、サービス管理責任者・主任及び副主任が出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

・課業班代表者会議

7月、10月、2月に、サービス管理責任者、課業活動担当副主任、各活動グループ代表者が出席した。

・各委員会

※QOL向上委員会、危機管理委員会は別項で報告。

・その他

個別の困難事例となっている利用者のケア会議を臨時に実施してきた。

②日中課業活動の支援

今年度は各活動単位で日中活動を実施した。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

支援度の高まりや特に夏場の異常高温もあり、毎日実施はできなかったが、週案に沿って安定的に実施してきた。以下が活動グループ。

- ドライブ&散歩グループ・・・公用車で出掛け公園等で気分転換等を主にする活動
- 個別活動・マッサージグループ・・・個別歩行や整体師によるマッサージを受ける活動
- 歩行訓練グループ・・・機能維持のため歩行を主にする活動
- 体力増進グループ・・・高い活動量を主にする活動
- リサイクル作業グループ・・・空き缶つぶし作業を実施
- フック組付作業グループ・・・フック組付作業を実施
- ペットボトルキャップ仕分作業グループ・・・ペットボトルキャップ仕分作業

## B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

### ●音楽クラブ

今年度も、季節に合った歌をうたうこと、鈴やタンバリン、太鼓などを利用した合奏、音楽に合わせた体操や手遊び等のプログラムで、音楽を楽しみ情緒の安定を図ることを目的に活動を行った。また、その発表の場の1つとして、近隣の高齢者施設に敬老の日訪問やクリスマス会での演奏を行った。

### ●競技クラブ

9月の『フライングディスク競技しずおか大会』（フライングディスク競技）、11月の『オレンジマラソン大会』に出場した。それに向けて出場競技の練習を行った。

### ●絵画クラブ

今年度も、12月に実施された『愛護ギャラリー展』に出展をした。それに向けて利用者個々の絵画づくりを中心に活動を行った。

### ●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

### ●家庭科クラブ

調理やおやつ作りを行った。

### ●作業クラブ

自閉症利用者を対象に、フック作業棟の軽作業活動を行った。

## ③行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

### A. 全体行事

#### ●春の親子遠足・・・5月27日（日）

今年度も豊橋総合動植物公園に出掛けた。利用者、家族、ボランティア、職員の計102名の参加。

#### ●夏祭り・・・8月24日（金）

利用者にじっくり楽しんで欲しいという理由から、職員の確保がし易い平日開催となった。時間的にも余裕が出たため、昨年度よりもじっくり楽しむことができた。また、夜は花火も楽しむことができた。今年度も出店等で四季の郷保護者会の支援もいただけた。平日にも関わらずボランティアの協力もあり、100名以上の参加が見られた。

#### ●秋祭り&保護者会バザー・・・11月23日（金）

今年度も12月の「障害者週間」を踏まえて、地元大山町の自治会長に一日施設長委嘱を行った。また、浜松市内の吹奏楽団や地元グループの踊り、地元企業のゆるキャラの参加や出店、四季の郷保護者会主催のバザー等を、学生ボランティア等の協力の元で盛大に実施できた。

●クリスマス会・・・12月23日（土）

今年度は、12月中旬ごろに嘔吐下痢症状が複数の利用者に見られたため、（症状は1週間程度で見られなくなったが）大事をとって恒例の浜松湖北高等学校吹奏楽部の出演を控えた。それでも、利用者自治会での意見に基づいて準備したランチの喫食、音楽クラブの発表や職員のパフォーマンス、保護者会役員が扮するサンタクロースからのプレゼント等、学生ボランティアの協力を受けながら楽しい時間を過ごした。

B. グループ活動

今年度も、4月の利用者、保護者・家族面談にて個別に外出希望のうかがい、外出テーマ（『観光・散策』、『食事』、『買い物』）別に小グループを編成し、年間12回の外出を行った。

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、新年会、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

D. その他の行事

えんしんファミリー映画会やヤマハ労連チャリティ公演（ミュージカル）に参加。

④健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。生活支援を行う支援員との情報共有や取り組みの確認・調整や食事形態や内容に対策が必要な場合には栄養士との連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきた。また、年2回の健康診断等で発見される糖尿病や高血圧、心疾患や呼吸器疾患等は近隣の内科や呼吸器科、循環器科等の専門病院に通院を行った。他、歯科や皮膚科、耳鼻科、眼科、整形外科等、多くの通院も行ってきた。

今年度も利用者のインフルエンザの集団感染は見られなかったが、12月の中旬に、10名ほどの利用者に嘔吐と下痢の症状が見られ保健所に報告した。症状は軽症で1週間ほどで症状は見られなくなったが、それ以後は感染症対策をより強化した。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他食欲不振・偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用してきたが、年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・軟菜食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供の度合いの高まりを感じた。

また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けた。

献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食を提供してきた。

震災時への対応としては、7日分の非常食と飲料水を確保し防災倉庫に備蓄してきた。

施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供して



いきたい。

※食事提供の状況

盛り付け量	主 食	カロリー	男	女	合計
極々小	60 g	1450kcal	0	2	2
極 小	100g	1550kcal	0	5	5
小	120g	1650kcal	8	12	20
中	150g	1750kcal	3	2	5
大	200g	1950kcal	5	1	6
特大	250g	2150kcal	7	1	8
超特大	300 g	2350kcal	1	0	1
合 計			24	23	47

種 類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	3	4
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳			
	糖尿食	1	0	1
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	0	2	2
	刻み食	10	11	21
栄養補助食品	一口大	2	1	3
	嚥下ミキサー食	1	0	1
	微量栄養素補助食品	2	2	4
	高カロリー食品	2	0	2

(3) 安全・安心の生活ができる環境づくりを行う。

①危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行った。必要な場合には、主任者会議やケア会議につなげ、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

②防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。訓練実施後は、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、その訓練ごとに振り返りを行ってきた。

実施月日	訓 練 実 施 内 容
4月10日	突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5月8日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
6月22日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 第二大山荘・第三大山荘合同訓練の実施
7月10日	大雨による河川氾濫の避難訓練を実施 停電想定訓練の実施
8月7日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
9月18日	安否コールを使用し送受信訓練及び非常招集訓練を実施 夜間帯の火災を想定しての避難訓練を実施
10月19日	休日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 消防署との逆信応答訓練の実施

11月13日	平日の日中の突発地震を想定しての避難訓練を実施 非常物品の確認、携帯発電機操作訓練の実施
12月14日	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施
12月30日	携帯発電機の電化機器への接続訓練、外部の非常照明設置個所の打ち合わせ
1月11日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練を実施 水消火器による消火訓練を実施
2月15日	湖東消防署消防隊員によるAEDを用いての心肺蘇生訓練を実施 異物除去、溺水時の処置方法の実技講習の実施
3月6日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施

(4) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①四季の郷保護者会の事務局機能

…保護者会役員会や保護者会行事の補助等の保護者会との橋渡しを行った。

②行事ボランティアの募集・受け入れ

…秋祭りやクリスマス会等の行事で手伝いをしてくれるボランティアの募集について、近隣大学に募集依頼を行った。また一般のボランティアは職員を通して募集・依頼をすることが多かった。

③実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。

※実習生受け入れ実績 (平成30年4月～平成31年3月／実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
静岡県立大学短期大学部	保育実習	5月28日～6月9日	12	1
静岡子ども福祉専門学校	保育実習	6月18日～6月28日	10	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	7月2日～7月14日	12	2
聖隷クリストファー大学	介護実習	8月30日・31日	2	2
浜松学院大学	保育実習	9月3日～9月15日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月3日～10月15日	12	1
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月5日～11月15日	10	1
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月19日～11月29日	10	2
浜松学院大学	保育実習	2月12日～2月24日	12	1
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	5月(1日ずつ)	9	17
実習受け入れのべ日数			155日	
実習受け入れのべ人数			31名	

③短期入所

●受け入れ実績

平成30年度の受け入れ延べ日数実績は以下の通りである。

月	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	月計
4	0日	25日	3日	36日	49日	0日	115日
5	0	26	2	36	66	0	130
6	0	26	1	39	61	0	127

7	2	6	4	68	66	0	146
8	2	8	4	63	65	0	142
9	4	8	0	59	71	0	142
10	4	10	0	64	60	9	147
11	4	16	2	59	54	8	143
12	2	6	0	64	39	6	121
1	0	13	31	31	21	8	104
2	0	11	31	26	24	6	98
3	2	12	31	33	22	8	108
計	26日	167日	109日	578日	598日	45日	1523日
合計	平成30年度 のべ1523日/159人(男115人・女44人) 平成29年度 のべ1487日/172人						

④日中一時支援事業

●受け入れ実績

平成30年度の受け入れについては、浜松市と磐田市で委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は、西区、北区、中区、南区からの利用が見られたが、磐田市からは利用は見られなかった。帰宅実績は以下の通りである。

	浜松市		磐田市	
	のべ人数	のべ時間	実人数	のべ時間
	62人	2339時間	0人	0時間
	平成30年度 実人数62人/のべ2339時間 平成29年度 実人数84人/のべ3758時間			

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

今年度も、積極的に園内研修および外部研修を実施してきた。

園内研修については、人権擁護や危機管理に関わる内容が多かった。

外部研修についても、知的障害者福祉協会や社会福祉協議会主催の研修を中心に、経験や関心、ケース担当利用者との絡みでの人選を行い参加につなげた。

●園内研修

日付	研修内容	参加者
6月29日	「利用者支援について」(非常勤支援員研修)	6名
7月31日	「四季の郷の支援を考える」(全職員)	19名
8月31日	「昴会理念と施設職員の仕事」、「人権擁護について」 (法人虐待防止委員会主催法人研修)	39名
9月25日	「虐待防止セルフチェック集計報告」(主任者研修)	6名
10月9日	「感染症予防対策」(全職員)	25名
12月26日	「危機管理マニュアル確認・嘔吐処理実技」(支援員)	16名
1月30日	「接遇、スピーチロック」「身体拘束」 (QOL向上委員会主催研修)	20名
2月5日	「個別支援計画書」(支援員)	14名
3月28日	「障害者施設における不適切ケアの原因と解決策」 (法人虐待防止委員会主催法人研修) 外部講師	40名

\*全職員・・・把握職員、夜勤・早夜勤入り の職員を除く

●外部研修

日付	研修内容	参加者
5月10日	高齢者施設のリスクマネジメント講座	支援員1名
6月13日	社会福祉法人簿記入門講座	事務員1名
6月19日	自立支援介護の理論と実践	支援員1名
7月12日～13日	東海地区知的障害関係施設職員研究協議会	施設長 支援員2名
9月14日	社会福祉法人予算管理基礎講座	事務員1名
9月26日	ソーシャルワークの可能性、防犯対策	相談員1名
9月26日	感染症予防研修会	施設長
10月15日	社会福祉法人会計実務専門講座	事務員1名
10月29日～30日	障害者支援施設部会研修	施設長 支援員1名
11月1日	県知協栄養部会研修会	栄養士
11月5日	社会福祉法人税務実務講座	事務員2名
12月10日	障害者虐待防止研修会	支援員1名
12月10日	社会福祉法人財務管理講座	事務員2名
2月1日	行動障害と虐待のメカニズム	支援員1名
他	相談支援初任者研修、サービス管理責任者研修 強度行動障害基礎研修・実践研修	

## 第一大山荘

### 1. 入居者の状況（平成31年3月31日現在）

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	69	平成14年10月	四季の郷（生活介護）
2	Bさん	男	62	平成14年10月	大山ファーム（就労継続支援B型）
3	Cさん	男	67	平成21年10月	大山ファーム（就労継続支援B型）
4	Dさん	女	62	平成22年5月	パルステック工業株式会社就職

※H30年度は入退去者なし。

### 2. 支援の状況

- ・入居者の高齢化に伴う介護度の高まりや通院等の機会の増加が見られたため、平成30年10月1日の指定更新の機会に、今までの外部サービス利用型からサービス包括型に種類変更を行った。
- ・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行なった。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切にされた支援を行った。
- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファーム、四季の郷、就労先のパルステック工業と連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事・催し物の情報提供をおこなった。
- ・「事故報告」については、3件の報告があった。どの事故も幸い大きな事故にならなかったが、再発の防止に努めた。第一大山荘の利用者は、一人で外出・行動ができる利用者ばかりなので、夜間や遠方への外出時についての把握・支援で難しい面があった。

- ・感染症については、感染対策として、インフルエンザ予防接種及び日常的な予防に努めた結果、今季はインフルエンザを発症する入居者の方は見られなかった。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携を保った。しかし、利用者全員宿泊を伴う帰宅はなくなった。
- ・地域の方々との関わりについては、自治会に入会し地域行事に積極的に参加した。地域の方も行事参加への誘い掛けをして頂いたり、見かけた時には声を掛けて頂くなど、地域住民の一人として接し、気に掛けて頂いていることを感じている。
- ・スキルアップについては、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などに参加した。その研修内容については、職員会議内の時間を使い他の職員へ報告させた。

### 3. 支援体制

- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員1名）、生活支援員（10月から1名）、補職職員（1名）が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファーム職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。その中で、一般企業で働く入居者の平成31年度以降の再雇用が決定したことは大きな成果であった。

### 4. 健康支援

- ・毎日の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年2回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

### 5. 行事

- ・第一大山荘全体での行事は計画していないが、昴会の各事業所行事や第二大山荘・第三大山荘、地域の行事等に関する情報提供を行い、希望に応じて参加させてもらった。
- ・「第17回わかふじスポーツ大会」へ2名の入居者がボウリング競技に出場した。残念ながら今年の全国大会出場は無かった。

### 6. 会議・研修

- ・第一大山荘の会議は年6回（偶数月）に実施した。主に支援を行う世話人は非常勤職員の1人配置のため、日常的に利用者の状態や運営について管理者と密に話をするように努めた。また、法人の職員研修や外部研修、グループホーム連絡会などにも参加した。職員会議については、緊急案件対応以外、2ヶ月に1回を定例化してきた。

### 7. 防災の取り組み

- ・防災訓練実施状況は以下の通り。

5月15日	夜間の火災を想定しての避難訓練
7月20日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
9月14日	地震を想定しての避難訓練
3月14日	防災講習会（GH・四季の郷合同での避難誘導、地震体験訓練）

## 第二大山荘・第三大山荘

### 1. 入居者の状況（平成31年3月31日現在）

#### 第二大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	71	平成21年9月	引佐草の根作業所
2	Bさん	男	67	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Cさん	男	55	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Dさん	男	53	平成21年9月	大山ファーム
5	Eさん	男	44	平成21年9月	細江あすなろ作業所
6	Fさん	男	72	平成24年3月	アグリッシュ西丘

### 第三大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Gさん	女	73	平成21年9月	アグリッシュ西丘
2	Hさん	女	58	平成21年9月	アグリッシュ西丘
3	Iさん	女	53	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Jさん	女	52	平成28年4月	大山ファーム
5	Kさん	女	68	平成29年6月	アグリッシュ西丘
6	Kさん	女	68	平成27年6月	細江あすなろ作業所

※平成30年度の入退去者はなし。

## 2. 支援の状況

- ・障害者差別、虐待防止、権利擁護に対する支援を求められる中、グループホームでは、常に利用者の人権を守る意識を持ち、社会福祉法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切に支援を行った。
- ・めりはりのある日常生活送れるように、平日は日中活動先の大山ファーム、あすなろ作業所、アグリッシュ西丘と連携・協力して支援を行った。また、土日は地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるように、法人の行事や地域の行事・催し物の情報提供と参加できるように支援した。
- ・ひやり・はっと、事故については、1名の利用者が転倒等で骨折してしまう事故が発生したため、手すりやインターホンの設置等の館内のハード面の対策を実施した。第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が65歳以上と高齢化が進んでいるので、今後は高齢者心理や介助について研修の機会を作っていきたいと考えている。
- ・感染症については、感染対策としてインフルエンザ予防接種及び日常的な予防に努めたため、感染者は出なかった。
- ・家族（成年後見人等）とは、年2回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。今年度の泊りの帰宅ができたのは、2名だけであった。

## 3. 支援体制

- ・管理者、生活支援員、世話人が日常的生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である四季の郷の職員、大山ファーム職員、アグリッシュ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、看護師、栄養士等とも連携・協力して支援を行った。
- ・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図る

よう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。入居者の半数（6名）が65歳以上となり高齢化が進んでいるなか、グループホームの高齢者支援は今後の課題になっている。

### 3. 行事

- ・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることができる外出、地域との交流等、日々の生活が単調にならないよう行事計画や情報提供を心掛けた。また、地域の祭りにも積極的に参加した。参加は、その都度希望者を募った。

主な行事は以下の通り。

えんしん映画招待、花火、四季の郷夏祭り・秋祭り、四季の郷秋祭り食事外出、大晦日行事、初詣、誕生会、おやつ作り、地元行事、障害者スポーツ大会

### 4. 健康支援

- ・毎日の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科の通院に加え、整形外科へ通院している入居者も加わった。定期通院による治療及び服薬管理支援を継続し、また、受診が必要な疾患を発症した入居者には、通院介助を実施・対応した。また、年2回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

### 5. 防災の取り組み

- ・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。また、昴会法人合同防災訓練及び四季の郷と合同防災講習会に参加した。
- ・防災訓練実施状況

5月20日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
6月22日	平日の昼間の火災を想定しての避難訓練
7月29日	夜間の火災を想定しての避難訓練（夜間実施）
9月22日	総合防災訓練（南海トラフ大地震の発生を想定しての避難訓練）
11月5日	社会福祉施設総合防災訓練（四季の郷と合同訓練）
3月13日	休日昼間の火災を想定しての避難訓練と地震体験訓練

### 6. 会議・研修

- ・月1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。
- ・研修については、職員会議内の時間を使い、「外部研修の報告」「防犯対策」「感染予防」「虐待防止」「事故防止」をテーマにした内部研修を実施した。
- ・外部研修については、全国グループホーム等研修会（1名）、東海地区知的障害福祉関係職員研究大会（1名）。また、浜松グループホーム連絡会では、「施設見学」や「移動支援についての講習」に参加した。その研修内容については、職員会議内の時間を使い他の職員へ報告を行った。

## 細江あすなろ作業所

### 1. 利用者状況

平成31年3月31日の利用状況は以下の通りである。

#### ①年齢別

年 齢	男性	女性
70代	0	1
60代	2	1
50代	2	1
40代	2	2
30代	0	1
20代	4	3
10代	1	
計	11	9
平均年齢	41.7歳	

## ②障害支援区分別

障害支援区分	人 数
1	0
2	0
3	3
4	5
5	11
6	1
計	20

## ③居住場所別

居住場所	人 数
自 宅	12
グループホーム	6
障害者支援施設	2
計	20

## 2. 作業状況

年間開所日数 249日

### ●生産活動

- 下請作業
  - ・エイテック（有）・・・プラスチック部品の仕分
  - ・エステック（有）・・・自動車部品の組み付け
  - ・野澤よしお政務調査事務所・・・機関紙の封筒入れ
- 自主製品
  - ・せっけん作り
  - ・ぼかし
  - ・咲織り
  - ・縫製用品
- その他
  - ・アルミ缶の回収

### 【自主製品の販売】

#### ○販売方法

- 直接販売
  - ・作業所・地域農協祭・わ西部地区会参加賞
  - ・浜松南ライオンズクラブ・遠州教会
- 委託販売
  - ・細江町社協・三ケ日町社協・奥浜名湖商工会・咲夢茶店
  - ・とんきい・竜ヶ岩洞

## 3. 活動状況

### (1) 利用者の意思及び人格を尊重。

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。特に個別外出を年2回行い、利用者とのより良い関係づくりに努め、職員間での情報共有を行った。

### (2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に服装に関しては、季節に合っていること・清潔さに重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で把握が困難な家庭については、家庭の許可を得て日常生活



品の購入や作業所内での衣類の管理支援をおこなった。

- (3) 利用者の食を原点とする衛生面の自立を目指す。
- ・食事前の手洗いにし清潔を意識する支援を行った。せっけんに不慣れな利用者には泡状のポンプを使用。
  - ・食事の場面では、支援員がつき食事における咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。
  - ・年に1回歯科衛生士による指導のもと、ブラッシング支援を行った。  
今後の課題として歯科医院に受診できない利用者もいるので、職員が付き添い不安を取り除く支援が必要である。
- (4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。
- ・毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースに合った歩行を行った。
  - ・指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。
- (5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援を行う。
- ・高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。
  - ・自主製品特に咲き織りを女性利用者中心に行った。
  - ・一部の利用者のために農作業も始めたところである。今後人数を増やし自然と親しみながら生産活動に結びつけていくのが今後の目標である。
- (6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努める。
- ・音楽を利用した表現活動に力をいれ、4人の講師による音楽療法、ミュージックセラピーを行い、ダンスを中心とした表現活動を行った。
  - ・5月には他施設との音楽会を開催、3月には作業所主催の音楽会を開き、劇を披露した。また、地域の音楽家たちとの交流も行った。

#### <行事>

- 4月 健康診断
- 5月 カレーな音楽会
- 6月 2町ボーリング大会・日帰り旅行
- 7月 引佐草の根作業所さん（フラダンス）
- 8月 夏休み
- 9月 防災訓練・ふれあいスポーツ・レクレーション大会
- 10月 元気ライブ。市民ふれあい広場にてダンス。歯科健診
- 11月 ほのぼのマーケット
- 12月 地区防災訓練・クリスマス会（三畳一間さん）・歯科健診・忘年会
- 1月 農協祭
- 2月 地区作品展
- 3月 風水害を想定した避難訓練

#### ※その他の行事

- ・月1回 誕生会（もしくは昼食会）
- ・月1回 音楽療法士による音楽会・音楽療法士による音と遊ぶ  
アコーディオン奏者による歌う会
- ・月1回 インストラクターによるレクダンス
- ・月1回 2名の講師による軽体操・健康セラピー
- ・年3回 医師による健康相談
- ・年1回 歯科衛生士による口腔指導

#### <職員研修>

- ・月1回 職員会議・ケア会議

- ・西部地区職員研修
- ・施設長研修
- ・実務研修
- ・強度行動障害基礎研修、実践研修
- ・リンパ体操

## 大山ファーム

### 1. 利用者状況

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数(名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	1	27	1.0	23.4	16.6	106	0	0	0	0	
5	1	27	1.0	23.4	16.6	106	0	0	0	0	
6	1	27	1.0	23.6	16.6	107	0	0	0	0	
7	1	27	1.0	23.5	16.6	107	0	0	0	0	
8	1	28	1.0	24.2	16.6	110	0	1	0	0	
9	1	28	1.0	24.0	16.6	109	0	0	0	0	
10	1	28	1.0	24.4	16.6	110	0	0	0	0	
11	1	28	1.0	23.6	16.6	107	0	0	0	0	
12	1	28	1.0	22.0	16.6	100	0	0	0	0	
1	1	28	1.0	22.4	16.6	102	0	0	0	0	
2	1	26	1.0	21.1	16.6	96.1	0	0	2	0	アグリッシュ
3	1	24	1.0	20.5	16.6	93.1	0	0	2	0	アグリッシュ
平均	1.0	27.1	1.0	23.0	16.6	104					

(男性：17人平均年齢歳／女性：7人平均年齢36.7歳)

#### (1) 利用定員

○就労移行支援（6名）・就労継続B型支援（22名）

#### (2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…1名（就労継続支援B型1名）

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、継続的に就労移行支援希望者の募集を行った。

就労継続支援B型は特別支援学校高等部の実習を受け入れた時期に将来の進路先としての希望があったため、利用定員が超過しないように調整を行った。

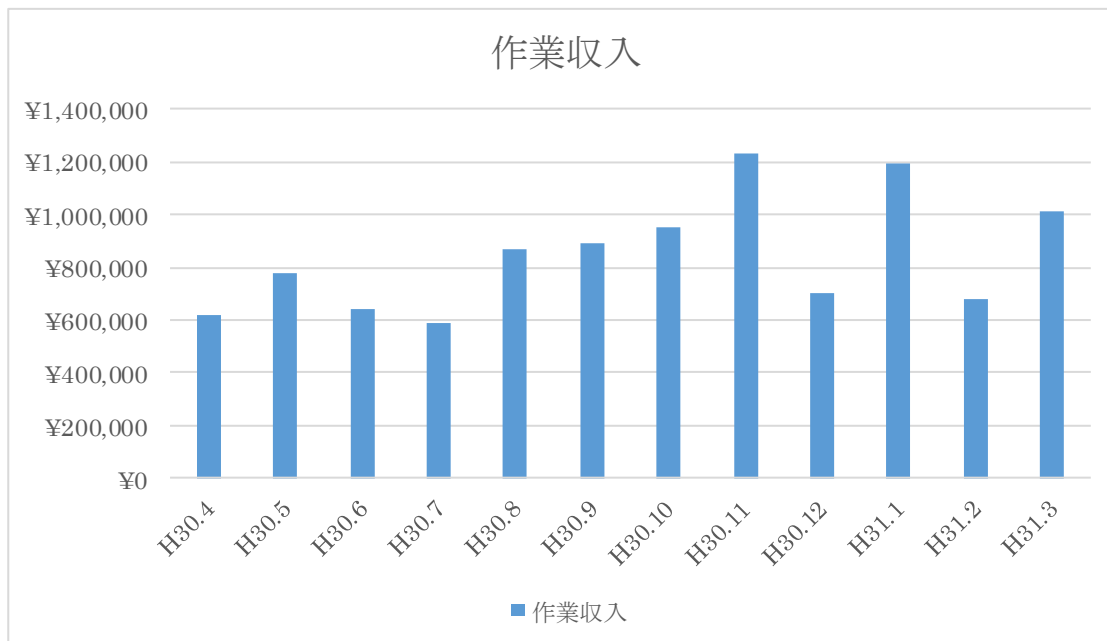
#### (3) 退所者内訳

○支援事業所変更…4名（就労継続支援B型4名）

利用者の加齢に伴い（身体機能・体力面の低下）活動内容の制約を受ける場面が多くなったため、比較的活動内容が軽度なアグリッシュ西丘や細江あすなろ作業所の見学・体験を経て異動した。

### 2. 支援の状況

#### (1) 作業収入割合



●平成 30 年度総収入 10,178,882 円 (平成 29 年度総収入 9,553,926 円)

(2) 支払工賃

●工賃総額 5,363,329 円 (平成 29 年度工賃総額) 5,359,860 円

●月一人あたりの平均工賃 就労継続支援 B 型 16,043 円

(平成 29 年度平均工賃) 就労継続支援 B 型 15,459 円

(3) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(福)四季の郷	清掃・衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(株)TG	自動車部品の組み付け	
めせあファーム	野菜の収穫・除草等	
宮木農園	野菜の収穫・除草等	

就労に必要なスキル(挨拶やマナー)を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。

(4) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)TG	自動車部品の組み付け	
(有)グリーンライフ	葉ネギの選別・梱包	
(有)船越造園	除草作業	不定期
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	
大五運送株式会社	梱包・箱組	
めせあファーム	玉ねぎの選別・梱包	
法林寺	除草・清掃作業	月に 1 回
優先調達	除草作業	旧南庄内幼稚園・西部衛生工場他

利用者の重度化・高齢化に伴い新たな委託先・作業を開拓したり、作業手順(費用対効果等)を見直したりして委託作業の整理を行った。

障害者優先調達法により、優先的に公的機関の除草業務等を請け負うことができるようになった。

(5) 農作業

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	地域交流まつり等各行事 無人販売所	ミニトマト狩り ふぁ～まるしえ
委託販売	J Aとびあファーマーズマーケット ヴィラ東山苑 るびなすの畑	三方原店・浜北店 高齢者施設

栽培作物（ミニトマト・干し芋・ふき等）

ミニトマトについては前年度と同様に近隣の農家より作付け時期を1ヵ月程度、早めたことで品数が薄い9月から出荷することができた。栽培品種はアイコと千果の2品種を選定した。アイコに限っては夏場の高温により、9～11月の収穫量に低下が見られた。

無人販売所の「ふぁ～まるしえ」（大山ファームのミニトマトを中心に農作業等につながりのある農家の作物も販売）は毎日30～50点ほどの売り上げがあった。また、除草作業を通して関係のあった成子幼稚園の園児をミニトマト狩りに招待するなど自主製品のミニトマトを通してたくさんの笑顔を見ることができた。

### 3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断、12月に歯科検診を大山ファームで実施した。

感染症対策として12月から通所時の検温や換気、湿度の調整を行った。また、利用者にもうがいや手洗い等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターを掲示した。インフルエンザが流行することはなかった。

### 4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。（6月「法人防災訓練」9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」）また、定期的に昂会通所事業所が集まり、防災・危機管理について情報交換を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

### 5. 行事

誕生者がいる月には午後の休憩時間に誕生会を実施した。また、正月休み明けには買い出しから調理までを利用者と一緒に行う新年会を行った。平成31年3月に第8回目となる地域交流まつりを東大山桜まつりと同時期に開催した。イベントとして大山ファームのミニトマト狩りやウォークラリー等を行った。

### 6. 会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1回/週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

内部研修は「自己評価シートの考え方と活用方法」「出張・研修報告会」「新年度の体制変更・具体的な取り組みについて」を行った。

外部研修については行政や静岡県知的障害者福祉協会の研修へ積極的に参加して関係機関、事業所のつながりを意識した。支援プログラムの質の向上のため、障害者職業・生活支援センターが主催した就職支援や定着支援の方法等の研修の機会も持った。

## アグリッシェ西丘

### 1. 利用者状況

月	在籍者 (名)	1日の平均 出勤者数 (名)	稼働率 (%)	契約者	終了者	契約終了理由
	B型	B型	B型	B型	B型	
4	17	10.7	53.5	7	0	
5	17	11.8	59	0	0	
6	17	12.2	61	0	0	
7	17	12.1	60.5	0	1	他就労移行事業移行
8	16	10.4	52	0	1	他就労A移行
9	15	10.4	52	0	0	
10	18	10.8	54	3	1	他就労B移行
11	19	12.0	60.4	2	1	短期入所移行
12	20	12.5	62.8	2	0	
1	20	12.2	61.9	0	0	
2	25	15.2	76	5	0	
3	25	16.1	73.3	0	0	
平均	18.8	12.2	60.53	19	4	

### 【利用定員】

就労継続B型支援（20名）

### 【新規利用者内訳】

- 特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえるようになった。平成30年度、4月より卒業生4名が利用契約利用開始。
- 地域からの利用…11名（在宅3名/就労継続支援B型6名/就労移行2名）  
4月段階では新規契約者7名からのスタートであったが、10月からは身体障害の利用者4名と契約に至った。
- 同法人内の大山ファーム就労継続B事業より、4名の利用者がアグリッシュ西丘に移行した。
- 特別支援学校や相談支援事業所等と連携することで、新規利用者の確保に努めた。地域からの利用者の特徴としては過去に就労経験があり、中途に身体障害となった人の利用ニーズが上がってきていた。作業内容や支援方法に工夫に努めた。

### 【退所者内訳】

- ・他事業所就労移行支援へ移行 1名
- ・他事業所就労継続支援A型へ移行 1名
- ・他事業所就労継続支援B型へ移行 1名（12月再契約で利用開始）
- ・緊急一時保護による短期入所利用 1名

## 2. 支援の状況

### ●作業収入…平成30年度作業総収入 2,128,076円

水耕・露地部門で前年度は66%占めていたが、今年度は下請け仕事や農作業の下請け仕事が入ってきて、前年度に比べるとバランスは改善されつつある。31年度に向けては、下請け作業や、外部施設外作業などの比率を上げさらに上げていき、諸経費が掛からない仕事を増やしていきたい。

### ●支払工賃

- 1) 工賃総額 1,086,034円
- 2) 月一人あたりの平均工賃 5122.8円

### ①施設外作業

実習先事業所	作業内容	備考
A個人農家	パセリ片付け・耕耘作業	
B個人農家	ニンジン収穫	
スマイルファーム スズキ	石拾い	

### ②下請け作業

委託先	作業内容	備 考
昭栄商会(株)国土興産	プラスチック製品リサイクル前処理	
水野加工(有)	自動車部品組み立て	
ワコー(株)	自動車部品組み立て	
大五運送(株)	お菓子梱包作業	

③農作業（LED 水耕栽培、露地栽培）

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	同法人内他事業所の行事での直売	
委託販売	J Aとぴあファーマーズマーケット	三方原店

3. 職員研修

●内部研修

	内 容	参加者人数	実施日
1	障害特性に応じた理解と支援 知的障害・身体障害の理解	サビ管理、支援員 5名	5/8 18:00～19:00
2	虐待防止研修 職員セルフチェックの実施 ストレスチェック、ストレス耐性	サビ管理、支援員 5名	8/4 15:30～16:30
3	法人研修会 昴会理念と、施設・事業所職員の 仕事	法人職員 39名	8/31 17:30～19:00
4	障害特性に応じた理解と支援 精神障害の理解	サビ管理、支援員 6名	3/9 18:00～19:00
5	不適切ケアについての研修	法人職員 40名	3/28 17:30～19:00

●外部研修

	内 容	参加者人数	実施日
1	虐待防止するための研修会	支援員 1名	12/10 8:00～16:00

●新任職員研修

	内 容	時 期
1	・福祉の森、記入方法 記録の大切さ ・業務の振り返り、 ・障害理解について	4/3 16:30～17:00
2	・福祉の森、記入方法 記録の大切さ ・業務の振り返り、 ・障害理解について	6/4 16:30～17:30
3	・福祉の森、記入方法 記録の大切さ ・業務の振り返り、 ・障害理解について	7/23 16:30～17:00

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の森、記入方法 記録の大切さ</li> <li>・業務の割り振り</li> <li>・障害理解について</li> </ul>	1/14 13:00～14:00
---	--	---------------------

## すばる

### 1. 受け入れ実績

今年度も相談支援事業は、実際に利用するサービスも含めたサービス利用等計画書の作成とモニタリングを行う自立支援給付内の特定相談支援事業(計画相談)と、浜松市から委託を受けた障害者相談支援事業の2本立てで事業を行った。

平成30年度の受け入れ実績は、以下の通りである。

#### ①特定相談支援事業(計画相談)

※計画書作成とモニタリング実施の請求数(件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画 モニタリング	50	44	46	66	46	53	54	45	70	52	66	84	676

#### ②浜松市委託障害者相談支援事業

(1) 実施日数 254日

(2) 支援方法 <のべ数>

訪問相談	来所相談	同行支援	電話相談	電子メール相談	個別ケア会議	関係機関調整	その他	合計
282	20	124	773	67	63	1044	15	2388

(3) 支援内容 <のべ数>

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	447	家計、経済に関する支援	156
社会資源の活用に関する支援	246	生活技術に関する支援	39
障害や病状の理解に関する支援	67	就労に関する支援	71
健康・医療に関する支援	421	社会参加に関する支援	1
不安の解消・情緒安定に関する支援	328	余暇活動に関する支援	3
保育・教育に関する支援	18	権利擁護に関する支援	78
家族関係・人間関係に関する支援	431	その他福祉に関する支援	82
		合 計	2388

(4) 障害別利用者 <実人数>

	知的	身体	精神	発達	重症 心身	高次脳 機能	難 病	その他	計
障害者	49	29	83	4	0	1	2	4	148
障害児	2	0	0	0	0	0	0	0	2

### 2. 受け入れの状況

計画相談、委託相談とも、それぞれ専任1名・兼務1名、計3名の職員を配置して事業を

実施した。

まず、計画相談については、前年度に行き続き利用者が多い状況が見られた。委託相談についても、前年度よりも年間 100 件以上の増加が見られた。日常的な相談を受け付ける委託相談とサービス利用につなげる計画相談の 2 つの事業を行っているところがすばるの強みでもあるが、その分担当者間の連携の必要度の増加や市・区からの対応依頼の増加もあり、かなり多忙な状況であった。日常生活で不安や不調を感じ易い精神障害を持つ利用者の増加や、障害者本人だけではなく、家族も含めた支援が必要なケースが多かったことも対応件数の増加の理由であった。

今年度も、住み慣れた地域での生活の継続のための環境整備を目的とした西区障害者自立支援連絡会の運営に積極的に関わってきた。毎月 1 回の事務局会議や事例検討会、全体会の企画・運営を担ってきた。

### 3. 研修等

困難ケース等の職員間の情報共有や支援・対応の確認は、日々の業務の間で実施してきたが、朝の業務に出掛ける前に打ち合わせ会を実施してきた。

以下は、外部研修の内容。

月日	実施日・テーマ	主催
7/6	浜松市における障害児・者の生活を支える地域体制づくり	浜松市障がい者基幹相談支援センター
10/6	聖隷三方原病院精神科スタッフと地域スタッフ交流会	聖隷三方原病院
12/10	浜松市障害者虐待防止研修会	浜松市障害保健福祉課
2/6	高齢者・障害者虐待防止講演会	浜松市障害保健福祉課 高齢者福祉課
2/14	あらためてアセスメントとは何か	相談支援事業所まで



## 事業報告の附属明細書

平成 30 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昴会